

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2023

春

No.49

# JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人  
上越教育大学  
Joetsu University of Education

学園だより

特集

教職に必要な幅広い経験や技能・  
たくましい実践力を身に付ける

1年次必修科目

# 体験学習

教員就職率

全国トップクラス!

学校教育学部

82.4%

教員就職 117名

教職大学院

95.9%

教員就職 71名  
(現職教員を除く)

※令和4年3月卒業・修了者の就職状況



「理論」と「実践」を  
架橋する研究者に

# 研究室

榎原 範久 (さかきばらのりひさ) 学校教育学系 准教授  
専門は教育工学、社会科教育、ICT活用研究。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所先端課題実践開発専攻修了。博士(学校教育学)。2018年4月に本学着任。主な取り組みとしてGIGAスクール構想の推進のため、近隣の教育委員会と連携し、ICT活用をテーマに拡发型教員研修プログラムを展開している。

ある公立中学校教員の話。教員生活12年を越え、それまでの教員経験で、標準的な結果は何とか出せるようになっていた。しかし、成長の「頭打ち感」を感じていた。そこで、その教員は大学院進学を決意し、院生として上越教育大学教職大学院へ。入学後は、一人一台端末時代の到来を期待し、社会科教育におけるICT活用の研究にのめり込んだ。これまで、子どもたちの価値ある意見や考え方の多くはアナログの学習環境下では手元に埋もれていた。しかし、ICTを使えば教室全体に可視化できる。遠隔でさらに外の世界も可視化できる。ICTを活用した思考の可視化、それがもたらす様々な効果に無限の可能性を感じていた。その教員は、研究の面白さに取りつかれ、現場の中学校教員の仕事をしながら、博士課程に進学。そして研究の道を歩むことになった。

「その教員」とは私のことです。今は本学で教員をしています。研究は奥深い営みだと感じます。そしてICT研究には大きな可能性があります。その可能性に夢を抱いてこの道を志しました。



研究に熱を入れ始めた時、愕然としたことがあります。それは、中学校教員時代に授業や学級経営で悩んでいた事柄の多くはすでに先行研究で解決されていたということです。子どもたちを主体的に学習に取り組ませる手立ても、学級を有機的に機能させる原理・原則も、特別な支援を要する子どもへの担任の働きかけの方法論も理論として多く確立していました。研究の世界には先人が積み重ねた価値ある知見が蓄積されています。しかし、なぜこれだけの価値ある学術的な理論が簡単に広まらないのでしょうか。それは理論が難しい言語に留まっていたり、実践への接続・転用方法まで明らかになっていなかったりするからです。まさに理論と実践が乖離したままになっていることが原因です。それを結びつけ、理論と実践に橋を架け、それらを融合していく営みこそ元教員の私にできることではないかと考えています。今後も共同研究を進める教授や研究室のゼミ生とともに現場の実践に寄与する研究に取り組んでいきたいと思えます。

元教員の経験を活かして  
現場のための研究を



# 上教大サイコー!!

## 夢も今も全力で!

私が通っている上越教育大学は、豊かな自然に囲まれ、四季に応じて姿を変える美しい所です。春は桜が咲き乱れ、秋には美しい紅葉。冬は綺麗な雪景色。私の地元は神奈川県ですが、このような体験はなかなかできません。それでは、私の上越教育大学での生活と夢を紹介します。

### 仲間との部活動

私はラグビー部とスキー部に所属しています。ラグビー部では、春はグラウンド、冬は体育館で週4日練習していて、社会人リーグの試合にも参加しています。仲間と共に切磋琢磨し、時にぶつかり、時に高めあって練習に励んでいます。練習後にみんなで食べる学食のご飯は格別です。また、冬はスキー部でスキー検定を取るためにゲレンデに赴き、練習をしています。これも上越ならではのです。

### 夢に着実に進む

私の夢は小学校の先生になることです。この夢は物心ついた頃から少しずつ思い描いていたのですが、受験を控えた進路選択の時に目標が変わりました。そのような中でこの上越教育大学と出会うことができました。このキャンパスでは日々の講義に加えて実践的な学びを得ることができます。学校ボランティアでは、一足先に教育現場に入り、先生として児童生徒と向き合うことができました。他の大学にはない実践的な人材育成こそが、この上越教育大学の強みだと日々肌で感じています。

### 全力!

このように上越教育大学は、夢も今も全力で楽しむことができる大学です。この大学で仲間と共に切磋琢磨し、児童生徒に愛されるような先生になれるよう頑張っていきます!



学部2年  
現代教育課題コース  
(学習臨床・授業研究)  
おおのの希  
大江 希 さん

教職に必要な幅広い経験や技能・たくましい実践力を身に付ける

# 1年次必修科目 体験学習

本学では教職に必要な幅広い経験や技能・たくましい実践力を身に付けるため、1年次の必修科目として「体験学習」を開設しています。

体験学習には全員が履修する「共通体験」と、複数のコースから1つを選択して履修する「選択体験」があります。今号では、「共通体験」ミニトマト栽培の授業の様子と令和4年度に開講された「選択体験」12コースを紹介いたします。

## 体験学習(必修1単位)

**選択体験**  
複数のコースから1つを選択して参加

**共通体験**  
ミニトマト栽培



### 〈共通体験〉ミニトマト栽培

小学校教員にとって栽培活動の指導力は基礎的技能の一つであることから、この体験によりまず自らの栽培技能の確認、習得を図ります。また、生物の成長を見とる体験、協同的作業の体験、ICTを活用した観察記録の公開体験を通し、教員としての資質向上につなげることを目標としています。



植え付けから収穫まで、各自が一人一株責任を持って、クラスの仲間と協力しあい、水やりや手入れをします。

### 4月

**ガイダンス**  
テキストを配付し、活動概要とロイロノートによる観察記録方法の説明



### 5月

**第1回一斉作業日：プランタへの苗の植え付け**  
当日までにテキストとGoogle Classroomにアップされた作業の説明ムービー（植え付け、支柱立て連結）を見て理解しておきます。



### 6月

**第2回一斉作業日：摘芽と茎の結束などの確認**  
当日までにテキストと作業の説明ムービー（摘芽と結束の方法）を見て自分のミニトマトの手入れを行います。



### 7月

**第3回一斉作業日：収穫と手入れの確認**  
収穫と摘芽、結束などの手入れをして、夏休みの作業の確認なども行います。



### 8月

**クラス作業日：収穫と手入れの確認**  
クラスごとに時間を決めて作業を行います。クラス内の学生同士で確認して作業し、教員のチェックを受けます。



### 10月

**第4回一斉作業日：片付け**  
支柱を外し、土と植物体は分けて堆肥作りに利用します。来年度の1年生のためにプランターはきれいに洗浄して、倉庫に収納します。



## 振り返り・自己評価

- ミニトマト栽培活動の振り返り(自己評価票)
- クラスで協力して活動できたか?
- ミニトマトの成長を実感することができたか?
- 教師になって指導することを考えながら取り組んだか?

ミニトマトを半年間しっかりと継続して栽培できることが評価の基礎条件。成長過程を科学的に見とりながら、実施する手入れ作業の意味を理解し、それらを他者に分かりやすく伝えることができるかどうかを、ロイロノートを活用した栽培観察記録に基づいて評価するよ。

### ICTを活用した栽培観察記録

ミニトマト栽培では、ロイロノート(授業支援クラウド)を使って栽培観察を記録します。記録は全員に共有され、様々な視点から観察を充実させることができます。

ロイロノート(授業支援クラウド)を使って観察記録カードを毎週1回作成

2週間分の観察記録カードをつないでロイロノートの提出箱に提出

提出されたロイロノートに教員が赤ペンチェックを入れる

学生は観察記録カードの赤ペンを参照して、次の観察に活かす

赤ペン入りの返却カードに、次の2週間分の新しいカードをつなげて提出箱に提出

21週間分のカードが繋がった観察記録が完成

### 全員で共有するメリット

ロイロノートの提出箱は全員に共有されているので、他の人の観察記録を参考にしながら、気づいていなかった視点からも観察を充実させることができます。



スマホの提出箱共有画面▶

## J ファシリテーター養成

—ホワイトボード・ミーティング®入門—

授業や会議に活用できる効率的、効果的な話し合いの技法「ホワイトボード・ミーティング®」の進行技術(ファシリテーション技術)の習得をめざします。教師のみならず、児童・生徒がファシリテーターになると授業や学級がアクティブになります。



ホワイトボードを使って情報共有を深める方法を学びます。

## K GLOCAL Cafe を開こう

—Think globally, act locally.

「総合的な学習の時間」の基礎的な体験として、フィールドワークを通して地域の人々と関わりながら地域の暮らしを見つめ、グローバルな課題を考えます。令和4年度は、上越の地元住民と外国から移住した住民がつながる場を企画し実施しました。



cafeの名前は「niko sili cafe」(ニコシリカフェ)。ニコニコ笑いながら互いのことを知り、つながりたいという思いを込めました。

## L 共生のまちづくりを考える

—バリアフリーマップアプリ(WheelLog!)を使って—

〈みんなで作るバリアフリーマップのWheelLog! アプリ〉を用いながら、高田のまち歩きとバリアフリーマップ作成を行います。その活動を通して、「共に生きる」ということを考えます。



7月20日の授業では、実際に車いすに乗りキャンパス内を移動。様々なミッションに挑戦し、気づいた点をマップに書き込み、全員で共有しました。

体験学習をとおして、  
経験の幅をひろげよう!



## G トマト×くらす

共通体験で自分たちが栽培した「トマト」について、家庭科の視点から楽しみながら深く追求します。



1 6月：久保田農園さんのトマト畑を見学。トマトの栽培法などお話を伺いました。  
2 11月：自分たちが育てたトマトの葉や茎を使って染色体験

## H 音楽の実技レッスンを体験し、発表しよう

声楽・器楽(ピアノ、管楽器、和楽器)・作曲の中から興味・関心のある領域の一つを選択し、個人指導を受けて技術・技能の向上をはかります。また、インドネシアの「ガムラン」を全員で合奏し、世界の多様な音楽表現の一端に触れます。



1 様々な編成による発表会 2 はじめて触れるガムラン

## I 外交・経済の社会体験

—教員、社会人としての思考力・実践力・人間力—

ゲーミングの手法を用いた教材を実際に体験することで、外交や経済など、日常生活では実感的な経験をする機会が得難い社会の事象を模擬体験します。ゲームのルールを理解し、戦略的、合理的な思考力を用い、他者との関係を調整することを通じて、「社会」の実感的理解と将来教員などの社会人として求められる基礎力・思考力・実践力の育成を目指します。



ボードゲームを楽しみながら、様々な社会を模擬体験します。

## D ものづくり体験学習

生活に役立つ木製品の製作と小型ロボットなどを使ったプログラミング体験のものづくり体験活動です。ものづくりの楽しさ、素晴らしさを体得するとともに、普通教育としての技術教育への理解を深め、ものづくりに関する初歩的な技術を修得します。



初回は情報機器を使った構内オリエンテーリング。消火器やAEDを探しスマホで記録します。

## E 本物を見てつくりよう!

(美術館見学と土器づくり)

美術館の本物の縄文土器を観察し、鑑賞教育について理解し、教員としての資質・能力を身につけます。また、鑑賞を基にして土器制作へ進み、縄文人の技術や芸術性を感じながら土器づくりを体験します。



1 美術棟にある陶芸室で土器の植木鉢を制作  
2 上越市中郷区縄文学校(片貝縄文資料館)で野焼き体験に参加

## F 小学校をリノベーション!

「月影の郷」に密着!!

—参画しよう地域のネットワークづくり—

「月影の郷」で地域教材の開発能力とコミュニケーション能力の育成を目指す体験学習。地域素材の活用や地域の人たちとのネットワークづくりなどをしながら、自ら課題の切り口を見つけ協働して解決していく学習です。



「月影の郷」の周辺の豊かな自然の中で活動します。

## 〈選択体験〉

### 複数のコースから1つを選択

選択体験では、複数のコースから1つを選択して履修し、興味関心のある活動の基礎力を養います。令和4年度は12のコースが開講されました。

## A 自然体験

里山等における自然体験、特に動植物の観察と採集、試食(山菜、タケノコ等)および伐採木を使った子供の遊び場作りを行い、野外体験活動指導力を養成します。



1 大学構内の弁天池・雨池でブラックバス釣り体験  
2 「緑の小道」で採った山菜を天ぷらにして試食

## B つくろう! あそぼう! つながろう!

畑を耕運機等で耕し野菜を育て収穫することをベースに、施設の周りにある身近な様々なものを使って楽しむ活動を行うなど、生活科や総合学習の基礎体験を行います。



4月：畑作り。鍬や耕運機を使って畑を耕し、種ジャガイモを植えました。

## C 運動・遊び・スポーツ行事主催体験

運動・遊び・スポーツ行事の企画・運営の体験を通して、子どもの行為や指導者の役割について理解を深めます。参加者の行動観察、事前準備、安全対策、集合のさせ方、挨拶や説明の仕方などをスポーツ行事での活動を通して学びます。



12月の授業ではユニバーサルホッケーとポッチャを体験

- 1 ドラッグストア
- 2 週5回
- 3 生活費、娯楽
- 4 大変だけど、楽しむために頑張れる。



学部1年  
近藤 朱音

- 1 飲食店
- 2 大型休業中
- 3 遊んだり、貯金
- 4 魅力はなんと言っても美味しい賄い！ステーキハウスだからステーキ賄いで出たり、おっきいエビが出たりなど豪華！面白い人が沢山いるよ！高級リゾートホテルの中にあるステーキハウスだからめっちゃ綺麗！



学部2年  
高 美優

- 1 飲食・接客業
- 2 週3~5回
- 3 娯楽・生活費
- 4 ランチやディナーの混む時間は大変！今まで知らなかったお店の裏側（どういう考えでその企画を始めたか）みたいな所が知れて面白い。



学部2年  
寺島 ももこ

- 1 飲食業（カフェ）
- 2 週2回程度
- 3 主に外食費や遊びに使う。メイク用品や服など好きな物を買う。
- 4 お客さんから「ありがとう」と笑顔で言ってもらえると嬉しくなる。案内や食事の提供などで、ほとんど歩き回らなきゃいけないので結構ハード。



学部2年  
石倉 愛

# 学生がつくる 上教大生のひろば

## アルバイト なにしてる？

### 質問事項

- 1 業種・職種
- 2 働く頻度
- 3 バイト代の使い道
- 4 コメント

「上教大生はどんなアルバイトをしているんだろう？」「どんなことにアルバイト代を使っているんだろう？」気になる上教大生のアルバイト事情を聞いてみました！

- 1 リゾートバイト（ドリンク提供、洗い場、調理）
- 2 週1回
- 3 食費、遊び
- 4 お酒をつくるのが楽しい。賄いがある。夜が遅い。



学部2年  
國谷 有里沙

- 1 接客
- 2 週3回くらい
- 3 服を買う、遊びに行く
- 4 自分が好きな化粧品の売り場で働いているので、楽しいです！長い時間入ると、ずっと立ってレジをすることになるので足が疲れます。



学部2年  
高島 里奈

- 1 塾（個別指導タイプの塾）
- 2 週3回
- 3 食費、貯金
- 4 いろいろな生徒とかかわることができる。教えることに関して勉強することができる。



学部2年  
土肥 康隆

- 1 飲食店バイト（焼肉屋）
- 2 週5回
- 3 食費、交際費
- 4 いろいろなお客さんとかかわれて楽しい。お肉についての知識が増える。



学部2年  
佐野 光志朗

- 1 塾での事務作業
- 2 週に1回から2回
- 3 洋服や靴、外食
- 4 事務作業は慣れてしまえばストレスなくできます。塾バイトは時給が高いのでたくさん入れればその分稼げます。上司の先生方も丁寧に仕事を教えてくれて優しいです！



学部2年  
山本 慶人

- 1 バッティングセンター
- 2 週2~3回
- 3 食費、美容
- 4 なかなか無い職種なので、新鮮な体験ができて楽しいです！



学部2年  
眞島 萌夏

## バイト代平均 43,750円/月

上教大生が幅広い業種のアルバイトをしていることが意外でした！色々なお店に入った時、上教大生が働いているかも？と思うようになりました。アルバイトの様子を聞くことを通して、友人の学外での一面を知れてよかったです。

学部2年  
寺澤 優人  
小井戸 結貴

- 1 スーパーのレジ
- 2 週3回
- 3 食費、娯楽費
- 4 大学生が1人だけですが働きやすい環境です。

- 1 アパレルショップ
- 2 週3日
- 3 食費、娯楽費
- 4 色々なことを考えながら働くため、学びが多いです。



学部2年  
松崎 杏香

- 1 スーパーのレジ
- 2 週3回くらい
- 3 買い物
- 4 大学生は自由で楽しいです！



学部1年  
山田 乃絵留

- 1 食品雑貨店
- 2 週4回
- 3 食費や趣味
- 4 お客様の接客の方法のほかに、コーヒー豆やワインなどの専門的な知識を身につけることができる



学部1年  
荒井 瑞生

- 1 ドラッグストア
- 2 週に2回
- 3 娯楽
- 4 土日に入るので人が多くて大変です。

- 1 食品雑貨店
- 2 週3回
- 3 娯楽
- 4 始めたばかりです



学部1年  
大坂 空

- 1 旅館バイト（調理補助、配膳、布団敷き、お迎えお見送り）
- 2 週1~2回
- 3 趣味（ぬりえ、画材）、食費、こたつ
- 4 知らない魚や野菜などの珍しい食材を覚えることができる。おかみさんが優しい。



学部2年  
大前 歌音

# 上越教育大学 附属小学校

# 自分をつくり未来を拓く 子どもが育つ学校

2022年研究は、「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」を研究主題とした、第11期教育課程開発研究の四年次にあたります。本研究では、これまで着眼してきた、「子どもの「問い」が立ちあがる教育活動の拡充」を副題として研究を進めてきました。

その成果を広く発信・提案する2022年研究会を、10月3日から11月18日にかけて行いました。おおよそ、一ヶ月半の期間を設定したのは、コロナ禍を鑑み、13の研究会活動公開を対面で分散実施したからです。また、11月12日から18日にかけて、秋の音楽集会を含めた研究会活動公開の動画をweb配信し、多くの方から視聴していただきました。それらをもとに、11月18日に、オンライン協議会を行いました。さらに、慶應義塾大学の鹿毛雅治先生をお招きし、当校職員とオンラインセッションを実施しました。

これらの2022年研究会を通していただいた様々なご意見、ご感想を、今後のよりよい教育活動づくりに生かしていきます。

## 研究会活動公開 (10月3日~11月11日)



20名を上限にして外部参観者を募り、研究会活動公開を分散して対面実施しました。活動公開後は、「活動写真トーク」を通して、活動づくりについて語り合いました。



## オンライン協議会 (11月18日)



主に、研究会活動公開動画を視聴した方とオンラインで活動について意見交換しました。

## 秋の音楽集会 (11月11日)



佐渡の伝統芸能である鬼太鼓を基にした学級パフォーマンス「鬼打太鼓」を中核にして表現することに取り組みました。



## 研究会活動公開動画配信 (11月12日~18日)



活動における子どもの姿を視聴者と共有できるよう、約65分間の動画を編集、配信しました。



2022年研究会活動公開動画  
3年2組 創造活動「季節めぐり」  
令和4年10月25日(水) 10時45分~11時

## オンラインセッション (11月18日)



慶應義塾大学の鹿毛雅治先生と当校職員とで、活動づくりや子どもの姿について語り合う様子を配信しました。

修了生からの  
お便り



# “わくわく感”を大切に、 自分自身も楽しむ

私は令和元年度より2年間、修士課程天文学研究室の瀧崎智佳先生のもと、理科を専門に学ばせていただきました。学部も上越教育大学の理科コースでしたので、合計で6年間お世話になりました。元々、「天文学の研究がしてみたい」、「理科をもっと専門的に学んで、その面白さを伝えていきたい」という夢を持って大学に入学したので、瀧崎先生のもとで、先進的な天文学の研究に打ち込めたことは、私にとって大変幸運で、貴重な時間でした。

修士論文では、宇宙初期から現在に至るまでに銀河がどのように形成されてきたのかを明らかにするため、宇宙史の中で最も盛んに星が形成されていたと考えられる宇宙年齢20~30億年(今の宇宙年齢は約138億年)にあるcloverleafという銀河の解析を行いました。解析を行うといっても対象となる銀河は、約100億光年(1光年は約9.5兆km)もの距離が離れているため、様々な工夫が必要となります。その都度、新たに物理や情報処理、プログラミングなどの必

要な知識や技能を学び、また先生方やゼミの仲間、共同研究者の方からアドバイスや議論の機会を頂いて進めていきました。研究では答えがわからない問題を扱うため、「試行錯誤」を繰り返し、もがきながら進まなければいけませんでしたが、しかし、その期間を乗り越えて何か新しいことがわかったときや何か新たにできるようになったときの“わくわく感”は決して他では味わえないものです。

現在、私は中学校で理科と技術科を担当しています。初めてのことがばかりで戸惑うことも多いのですが、研究で培った「試行錯誤」を大切に日々の授業に臨んでいます。授業をする上では「自分自身が楽しむこと」を大切にしています。教材の面白さ、楽しさを伝えるためには、やはり教師自身がその教材のもつ面白さを知っていなければいけないと思います。理科コースでは、身の回りの自然界は“わくわく”するような面白くて不思議なことに溢れていることを存分に学びました。それを少しでも子どもたちにも味わってもらえるような授業ができる教



師を目指しています。理科コースで過ごした6年間は、私にとって教員生活を続けていく底力を与えてくれました。これは、瀧崎先生を始め、私に学びの場を与えてくださった先生方のこの楽しさを伝えてくださった先生方のおかげです。感謝しています。大学・大学院で学んだことを糧にして、これからも子どもたちの成長に尽力したいと思えます。



小田川 琢郎  
(おだがわ たくろう)

長野県佐久市出身。上越教育大学学校教育学部卒業。学部時代は自然系理科コースに在籍。学部卒業後、令

和元年度上越教育大学大学院入学。修士課程学校教育研究科学校教育深化コース文理深化(理科)に在籍。大学院修了後は、新採用で岐阜県中津川市立付知北小学校に勤務。現在は、新潟県上町立田上中学校で理科、技術の教員として勤務している。



年1回発行の同窓会報「北海道上越会」

## 上越教育大学大学院同窓会 北海道支部 「北海道上越会」のあゆみ

上越教育大学大学院同窓会北海道支部は、平成22(2010)年10月9日に札幌市内で開催された設立総会にて誕生しました。設立にあたって、上越教育大学ならびに同窓会本部からのご支援、そして、当時の北海道支部の同窓生の皆様からの多大なご協力をいただきました。あらためてお礼を申し上げます。

上越教育大学大学院同窓会北海道支部は設立総会が開催された翌年に「同窓会報〔創刊号〕」を発行しています。その創刊号には、当時の北海道支部の会長であった松本恵一先生からの「一人一人の皆様の心の拠り所となるような支部として発展していくことを祈念して」という言葉の他、当時の事務局長であった田島郁夫先生(現在は会長)からの「北海道の同窓の輪を広げ新しい仲間づくりを目指して」という言葉も見られ、北海道支部設立への熱い思いが記されております。その後、上越教育大学大学院同窓会北海道支部は、創立5周年を記念して、当時の鈴木誠会長のもと、通称名を「北海道上越会」とし、平成23(2011)年度総会でご講演いただいた、当時の学長、若井彌一先生の監修による、『北の大地に「知・義・理と愛」を共に磨いて凜と翔べ』という標語を採択いたしました。現在に至る北海道上越会の理念はこうして形作られました。

北海道上越会では、前述の会報発行に加え、講演会、総会及び懇親会を年1回開催しております。講演会では上越教育大学から講師の先生をお招きし開催しています。また、総会では北海道上越会の基本方針を決定し、懇親会では会員相互が互いに近況について情報交換を行うことで交流を深めております。修了年度が異なる会員の皆様が新たな出会いと交流を広げてきた現状を鑑みますと、歴代の会長、副会長、事務局長、支部役員の皆様の献身的な取り組みによって、設立の理念がまさに北海道の大地で具現化されていることをあらためて実感するところであります。

北海道上越会は、令和元(2019)年度に創立10周年を迎えまして、そして今日に至っています。北海道上越会は、これからも、会員の皆様の交流の場として、会員の皆様とともにあゆみを進めて参りたいと存じます。

北海道上越会  
事務局長 堀田 誠

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。



ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -

### 上越教育大学リサイクル募金

ご寄附の詳細などはこちら▼

[kishapon.com/juen/](http://kishapon.com/juen/)

上越教育大学 リサイクル募金

検索



### 上越教育大学基金

ご寄附の詳細などはこちら▼

[juen.ac.jp/300kikin/](http://juen.ac.jp/300kikin/)

上越教育大学 基金

検索



## 上教大 なんでも 掲示板

### 第15回 辰野千壽教育賞の 選考結果



令和4年10月28日(金)に第15回(令和4年度)辰野千壽教育賞の授与式を挙行之、最優秀賞1名、優秀賞1名に賞状を授与するとともに副賞を贈呈しました。同教育賞は、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与える優れた教育・研究の振興に貢献するため創設されました。初等中等教育諸学校等の教育現場における特色ある実践研究や先進的取り組みを讃え、更なる発展に向け積極的に支援することを目的としています。

#### ●最優秀賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
小松 祐貴	新潟県糸魚川市立糸魚川中学校教諭	現象とモデルをつなぐAR教材の開発と授業デザイン

#### ●優秀賞

氏名	所属・職名等	主題及び副題
竺沙 敏彦	京都府城陽市立寺田西小学校教頭	初等中等教育における数学的活動を充実させるための教材の開発と授業実践 ～数学的モデリングの手法を用いた現実世界の問題解決の体験を通して～

### 3年振りに大学祭「越秋祭」を開催

令和4年10月22日(土)、23日(日)に3年振りの大学祭「第40回越秋祭」を開催しました。今年のテーマは「リスタート～よう(40)やく繋がる越秋祭～」。コロナ禍で3年振りの開催となる中、過去の先輩方からのバトンを未来へ繋いでいくという意味が込められています。当日、キャンパス内では各課外活動団体等による公演、コンサートや催しが開催され、生き生きと輝く学生の姿が見られました。



### 学部教員就職率82.4% 全国第2位

文部科学省が公表する国立の教員養成大学・学部の令和4年3月卒業者の教員就職率において、本学は82.4%(卒業生数から大学院進学者と保育士就職者を除いた数を母数とした場合)で、全国44大学・学部中、第2位となりました。

教職大学院(大学院専門職学位課程)修了者の教員就職率は95.9%でした。

10年連続80%以上  
達成は本学のみ!!



# J-style 通信

## 人的資本への投資としての教育

学長 林 泰成



ご卒業・ご修了される皆さん、まことに  
おめでとございます。皆さんの在学中は、  
新型コロナウイルス感染症の拡大もあって、  
皆さんにとっても、教職員にとってもたいへん  
つらい時期が続き、しかし、そうした困難を乗り越えて、

無事にご卒業・ご修了されることを慶びたいと思います。  
皆さんの多くは、これから教育関係の職で活躍されることと期待しています。教職は人を育てる職種です。その時々、社会の変化に応じて、教育の内容や方法をめぐることはさまざまな議論があり、教育政策の方針が変わることもあります。しかし、教育が、長い時間をかけて人を育てる営みであることは変わらないように思います。教育は国家百年の大計という表現もあります。

「国家百年の大計」の出所は、中国の『管子』だそうです。「二年の計は穀を樹（う）るに如（し）くはなく、十年の計は木を樹（う）るに如（し）くはなく、終身の計は人を樹（う）るに如（し）くはなし」（一年で成果を挙げようとすると、穀物を植えることだ。十年先を考えるなら、木を植えることだ。終身の計を立てるなら、人材を育てること（に尽きる）という表現が基になっているのだそうです。

新潟県には、米百俵の逸話もあります。北越戊辰戦争で敗れた長岡藩の大参事小林虎三郎は、支藩から送られた米百俵を、藩士たちには分け与えずに売却し、その費用で学校を設立したというエピソードです。山本有三の戯曲で有名になりました。

たが、苦しいときにこそ人づくりが必要だということでしょうか。道徳の教材として使われることもあり、皆さんはどこかで目にすることがあるのではないのでしょうか。  
教育は人に対する投資としての一面を持っています。学校で身につけた知識や技能は、その人の経済的価値を高めます。人の経済的価値などと言うと、あまりいい感じがしないという方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、人間を人的資本 (human capital) として捉える考え方は、18世紀に活躍し、経済学の父と言われているアダム・スミスの『国富論』にもあると言われています。20世紀には、後にノーベル経済学賞を受賞したセオドア・シュルツやゲーリー・ベッカーらによって、人的資本論が提案されました。現在では、企業経営などでも人的資本の重要性が説かれています。

さて、皆さんは、在学期間中に自己研鑽に励み、それぞれの価値をおおいに高めたことと思います。その営みは、今後

芸術・体育教育学系

教授 榊原 潔

### プロフィール

1984年4月、助手として着任。講師および助教授を経て、2020年10月、教授に就任。専門はスポーツ運動学、運動方法学（ボール運動・球技）。



### 充実した39年間に感謝

サッカーとの出会いは、1964年東京オリンピックサッカー決勝戦のあった国立霞ヶ丘競技場でした。当時7歳。熱心に観戦していたわけではなく、観客席の階段で遊んでいました。小学校では、休み時間にクラスの友だちとキックベースを楽しんでいる程度でしたが、中学校からは部活動としてサッカー競技を始めました。以来、高校、大学と競技を続け、その後研究対象にもなりました。こうして保健体育分野の教員として本学に奉職できたのも、好きなことを続けてきたからだと思います。

これまで、先輩・同僚の教員、職員の方々に大変お世話になったことはもちろんですが、学生・院生とともに考え、時には教えられ、教員を続けることができました。小学校体育科の目標は「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ことです。これからも、楽しく明るい生活を送れるように運動・スポーツに親しんでいきたいと思っています。私に関わってくれた多くの人たちに感謝！

## 退職教員から

皆さんへ



自然・生活教育学系

教授 中川 仁

### プロフィール

1986年7月、助手として着任。講師および助教授を経て、2005年4月、教授に就任。専門は整数論。



### 幸せでした

私は1986年7月に本学に着任しました。あっという間に36年9ヶ月が過ぎました。皆様のおかげで無事定年退職を迎えることができました。毎年当たり前のように楽しむことができた高田公園の桜やハスの花とも別れるときがきたと思うと、豊かな自然、歴史ある城下町、おいしい米と魚など、上越の素敵な環境の中で長く生活できた幸せをあらためて実感しています。研究については、自分が知りたいことを探求して数学という学問に多少なりとも貢献できたことに満足しています。教育については、真面目で熱心な学部学生・大学院生たちに情熱をもって数学を伝えることができたと思っています。長い間どうもありがとうございました。





# インタビュー 大学院で輝く人

大学院1年  
教科教育・教科複合実践研究コース  
人文・社会領域(英語)  
浦下楓さん

## 大学院入学の理由

小学生の頃、卒業文集で「将来の夢は学校の先生」と書いたことを今でも覚えています。「いつか先生として子どもの学びを支え、たくさんの子どもの笑顔が見たい。」その夢を貫き、学部時代に小学校免許状を取得し、教員採用試験に合格することができました。しかし、同時に専門教科がないことと、このまま教壇に立つことに不安があったため、ずっと好きだった英語の中高免許状を取得したいと思いました。また、小学校外国語教育に強い教師になるべく、理論と実践の往還がしたいと思い、入学を決めました。

## 大学院での学び

9月から学校支援プロジェクトとして小学校に入り、元気いっぱいの5年生の外国語科を担当しています。2学期に扱う教科書の3つのUnitの授業を行い、全てのUnitでバックワードデザインによる授業設計と、目的・場面・状況を明確にした言語活動を

手立てに支援を行っています。とは言え、目の前の児童は必要な英語表現が身につけてきているのか等、不安で自信がもてない日々が続きました。それでもゴールに向けてひとりひとりの児童をエンパワーし続け、パフォーマンス課題当日、練習してきた成果を発揮しようと頑張る姿やできるようになって喜ぶ児童の姿を見て、涙が出るくらい嬉しかったです。教師としてのやりがいを感じた瞬間でしたし、この瞬間のために日頃から準備したり環境づくりをしたりしていくことが教師の役目であると実感しました。このように多くの学びが得られているのも日々協同的に支援にあたっているチームメンバー、そしてゼミのアドバイザー教員の温かいご指導のおかげです。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

## 最後に

子どもたちの幸せのために、チャレンジし続ける2年間にしたいと思います。その土台として、日頃から多様な他者とのつながりを大切に良

好なコミュニケーションを築き、心の体力を温かく保つことを心がけています。



### インタビューを終えて

浦下さんはゼミ仲間であり同郷の大切な友人です。彼女の真っ直ぐで温かい心は私を含む周りの人をエンパワーする大きな力があります。常に「よりよく」を目指して頑張る姿はとても素敵で、私も頑張ろうと思えます。

### ■聞き手・文(写真左)

大学院1年  
教科教育・教科複合実践研究コース  
人文・社会領域(英語)  
若林 杏

## 免許 = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を修得することにより、教員免許状を取得することができます。



QRコードは(株)デンソーウェアの登録商標です。

アンケートにご協力ください  
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。



Facebook  
はじめました



Instagram  
はじめました